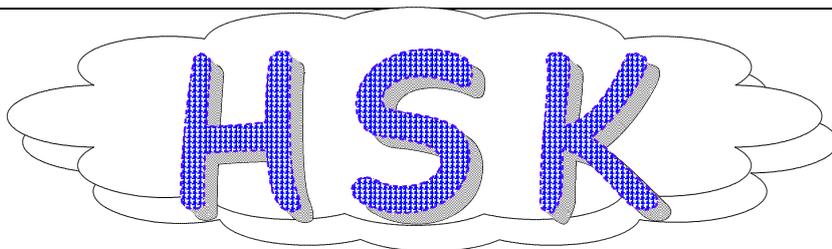
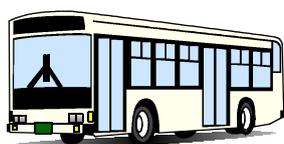


一九九四年八月四日 第三種郵便承認
H S K 毎月十二回 (一・三・五・八・十・十三・十五・十八・二十・二十三・二十五・二十八日) 発行



季刊わたぼうし

No.95
'13 春



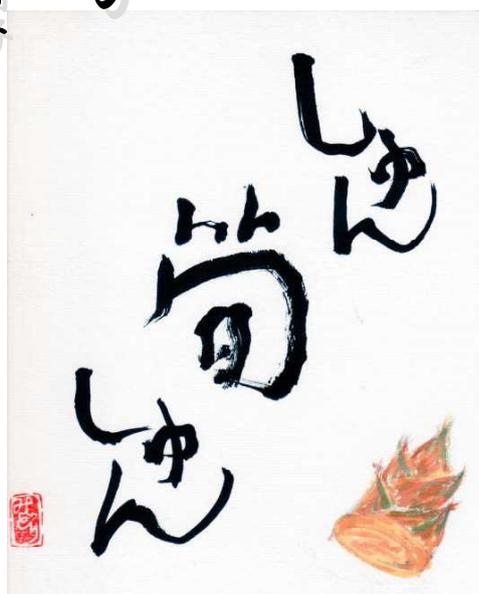
七尾市コミュニティバス
「ぐるっと7・西廻りコース」で巡る七尾の旅 2013 II

今回の目次

※七尾市コミュニティバス「ぐるっと7・西廻りコース」	
で巡る七尾の旅・2013 II	
・プロローグ(前置き)	2
・小丸山南交差点～小丸山公園	3
・小丸山南交差点(国道249号線)	3
・小丸山保育園	3
・チャイルドケアハウス小丸山	3
・小丸山南交差点～小丸山公園	3
・小丸山保育園、 チャイルドケアハウス小丸山と交流	4
・小丸山大橋の歩道(小丸山公園～羽咋方面)	5
・小丸山大橋～小丸山公園	5
・小丸山大橋の橋下を探検	6
・小丸山大橋から見る陸橋下・JR七尾駅	6
※「2012 脳性麻痺者の二次障害(頸椎症)」 について語ろう会 II	7
※協力会費納入のお願いについて	12

人間も
パンダも
食べる
竹親子

千寿子



この機関紙は障害のある人、ない人が自由に考えを出し合い、主義・主張を越えて、お互いを理解し合う中から共に生きる豊かな社会を作っていくことを目的として発行しています。

七尾市コミュニティバス 「ぐるっと7・西廻りコース」で巡る七尾の旅 2013 II

○七尾市コミュニティバス「ぐるっと7・西廻りコース」を使い、七尾の名所散策・人との出会いを求めて。一昨年、昨年の2年間で「ぐるっと7・西廻りコース」は青山彩光苑～小丸山台1丁目を巡り、今年是小丸山台1丁目～恵寿総合病院前を巡ります。

プロローグ(前置き)

七尾市コミュニティバス「ぐるっと7・西廻りコース」は「2001年青山彩光苑障害者週間」の企画で「七尾市に車いすで乗車できるバス『まりん号』を彩光苑へ」を合い言葉に運動、署名活動を行い、夢を実現させたものです。

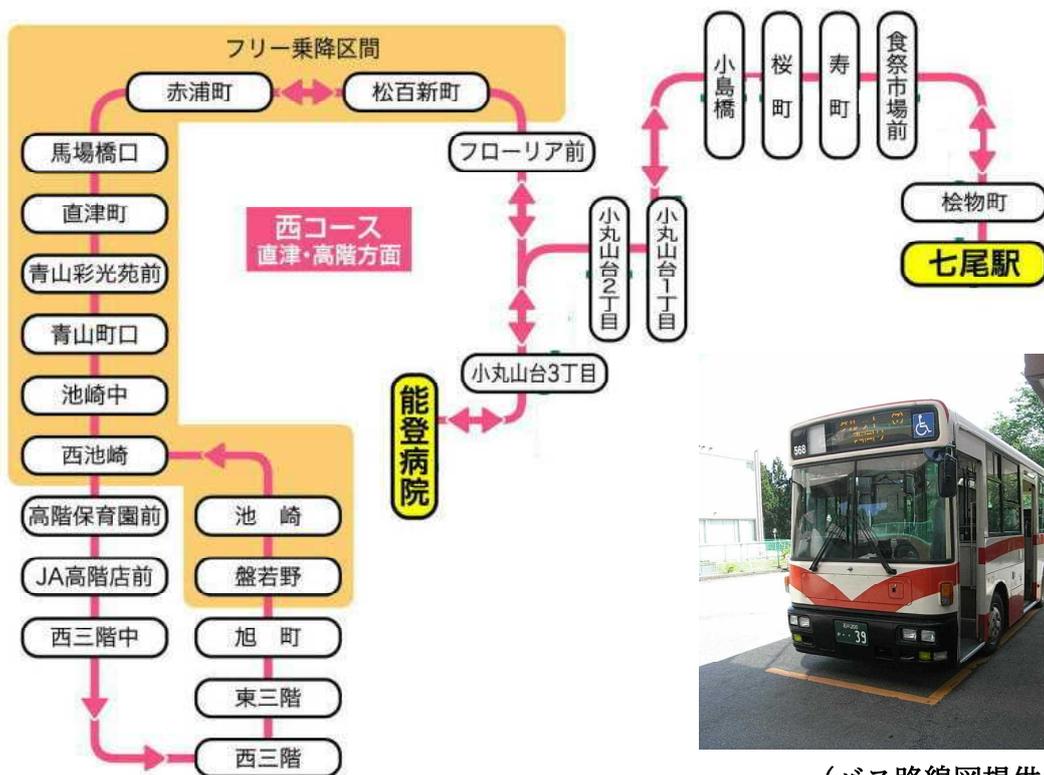
この署名活動は、車いす生活者だけではなく、高階・直津・赤浦地区の住民や、小丸山小学校に通学する児童の足の確保のためにも皆が力を合わせ行いました。青山彩光苑の利用者・職員・

地域住民・地元選出の市議会議員などが参加し、武元前七尾市長に車いすが乗車できるコミュニティバス運行の陳情をしました。

その運動の成果が実り、2002年11月より七尾駅から恵寿総合病院・公立能登総合病院・青山彩光苑を経由し高階地区を結び、車いす2台が乗車できるコミュニティバスの運行が開始しました。

今後、青山彩光苑～七尾駅の停留所を数年かけてデジカメで撮影し、観光やバリアフリー状況取材して報告したいと思います。

「ぐるっと7・西廻りコース」路線図(青山彩光苑～七尾駅)



(バス路線図提供・七尾市)

小丸山南交差点～小丸山公園

前号は小丸山台1丁目～小丸山南交差点まで行きましたが、今回は同交差点～小丸山公園へ向かいます。

小丸山南交差点(国道249号線)



危険な横断歩道(セレモニーホール七尾前)

(注)この横断歩道は歩道に上る坂があり、車いすが後ろに転倒する危険があります。



↑至羽咋
至JR七尾駅↓

小丸山南交差点～小丸山公園に向かう歩道。歩道幅は広いですが、横方向に傾斜があるの自走式車いすの移動はきついです。

写真③は、②の逆方向を撮影したものです。歩道の広さは車いすの通行に安心ですが、途中で車が車道に出る坂がたくさんあります。

小丸山公園に向かう道中に小丸山保育園、チャイルドケアハウス小丸山があります。



小丸山保育園



小丸山南交差点方向から撮影

チャイルドケアハウス小丸山



「チャイルドケアハウス小丸山」正面

小丸山保育園、チャイルドケアハウス小丸山との交流



「ぐるっと7・西廻りコース」の取材を通し、小丸山保育園の先生から活動の様子が送られて来ました。



最近、支援センター(育児相談や地域の親子サークル活動の場)で「英語で遊ぼう」のコーナーや、10月はハロウィン(2歳児の教室)を楽しみましたよ。



児童クラブでは地域のボランティアの方との交流をしているそうです。「しびびの会」のメンバーによる「読み聞かせ」をととても楽しみにしています。大型絵本は人気でいくつになっても「読んでもらう」嬉しいらしいです。

大きくなっても「しびびの会」は絵本の読み聞かせを行っているそうです。



七尾市リボン通りのシルバー人材センター「いきいき交流館2号店」での活動の様子です。

支援センターのママのサークル。毎週木曜日10時～、ママたちがお店開いています。

(写真、文章提供：小丸山保育園)

小丸山大橋の歩道 小丸山公園～羽咋方面



1 小丸山大橋(小丸山公園→羽咋方面)



2 小丸山大橋の歩道(小丸山公園→羽咋方面)

小丸山大橋～小丸山公園



3 (国道249号線)小丸山大橋・左側の歩道
歩道が傾斜なので、車いすの手こぎはきつい。



4 横方向に傾斜があるので、車いすの移動は不便。
↑小丸山公園
至羽咋↓



5 (国道249号線)小丸山交差点方向・右側の歩道
歩道の幅はあるが、車の通り抜けが斜めにな
っている箇所が数メートル間隔であるため、車
いすの移動は危険が伴います。
↑小丸山公園
至羽咋↓



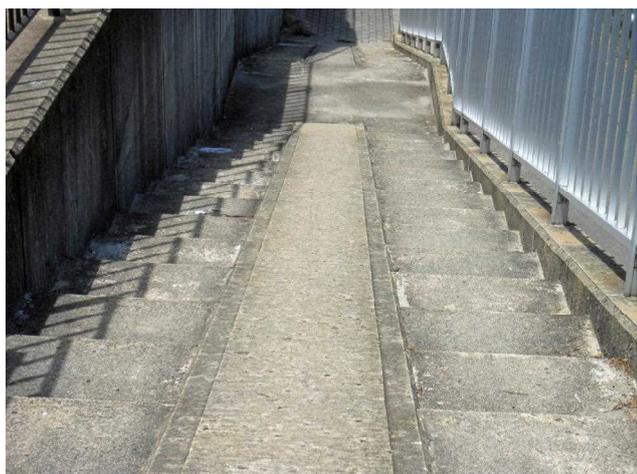
6 JR七尾線「藤橋踏切」線路際に咲くタチアオイ

小丸山大橋の橋下を探検

小丸山大橋から見る 陸橋下・JR七尾駅方面



矢印から階段を降りられる。



奈落に転げ落ちるのかな？



小丸山大橋の陸橋下より小丸山公園方向を撮影



美しい田園が見えました。



小丸山大橋から J R 七尾駅方面の桜川

先日、小丸山近辺を再度、取材活動を行い、地域の方々とふれあいました。秋までに編集し、各地の福祉まつり等で展示の予定です。

～次号へ続く～

「2012 脳性麻痺者の二次障害(頸椎症)」について語ろう会 II

語ろう会企画の経緯

昨年の秋に頸椎症の手術をされた方より、手術後の痛みについて相談を受け、手術は痛みの解決だけではなく、手術後のリハビリ、頸椎症との付き合いの方が大切さも感じ企画する。

目 的

手術後も痛みがあることを理解し、いかに痛みと上手に付き合っていく方法を互いの体験から得ることが出来る場とする。

内 容

過去数年間に脳性麻痺の頸椎症の手術をされた方数人に 集まって頂き、手術後の抱えている疑問、悩みを語り合う。

日 時：2012年10月17日(水)

14時～15時30分

場 所：青山彩光苑西館 多目的ホール

二次障害の座談会協力者

自立生活支援センター富山

理 事 長 平井 誠一氏

事務局長 浅木 裕美氏



語ろう会スタート

桶屋：それでは始めます。皆さん、こんにちは。よろしくお願ひします。代読お願ひします。

M氏：代読させていただきます。今日は「脳性麻痺者の二次障害(頸椎症) について語ろう会」に参加していただき、ありがとうございます。

昨年の5月にもこの会場で活発な意見交換を行いました。その時も参加されたFさんの病状、痛みが進行し、昨年10月に医科大で頸椎を手術されたということです。手術をして退院されても痛みがあると私に相談があり、お互いに言語障害があるので週に1回から2回パソコンを使って手術後の痛みについて意見交換をしたり、平井さんにメールをしてアドバイスを受けていました。

しかしメールでやりとりをするよりも、直接こうやってお話をした方がいいだろうと、夏くらいから計画をしまして、同じ悩みを持つ数人の人にも声をかけ、今回こういった会を開くことになりました。

こう言っている私自身も、昨年4月位から尿が出にくくなり、今は常時バルーンカテーテルを入れている状況になっています。これも頸椎症の進行から来ているのだろうと思われているそうです。今は頸の痛みは出ていませんが、いずれ痛みが出てくるかもしれませんので、自分のこととして考えていければいいと思います。



K氏との語ろう会

K氏：僕の場合は頸の手術は2回目です。一回目の手術を受けたのは13年前いきなり手の痺れや肩の痛みに襲われた時です。その時は、まだ親父もお袋もいました。金沢の医科大へ紹介状を書いてもらって行ったところ、普通のレントゲンで頸の骨が3、4、5番と7番の順番に1個ずつずれていることがすぐにわかった。

ずれているだけなら良いけれど、それが神経圧迫症といって、だんだん締め付けられるようになっていく。どうしようということで僕も初めは迷いました。家族の者にも聞いたら、手術するのが良いのではないかなったのです。

あと費用もかかるんだけど、身体に負担が多くかかるから良くないという結論が出ました。痛みの手術は僕の腰の骨の一部を取って頸に移植するというものでした。手術後、気がついたときはベッドの上に張り付けられたような感じでした。テレビはベッドの上にミラーがついていて、そのミラーで見るようにしていました。

もう1回は去年の1月、これも突然でしたが手の感覚、指の感覚がない。今まで足の痺れはなかったのが出てきた。今度は金大病院に行くことにしました。今度は家族があてにならない。父親は他界。母親はいるが、認知症で僕が誰かも判別できない。結局、兄貴に電話をかけて事

情を説明して……。

金大病院で診てもらったら、同じ脊髄性の病気でした。神経の通り道が狭くなっている。手術するしかない。神経を触ることになるかも知れない。このままだと手が上がらなくなることが予想される

今までは右腕が使えたので電動は指でやっていました。手術をした結果は手も上がらないし、動くのはこの指だけでした。手術したらちょっとでも動くと思っていた。ところが動かない。どうしたのかなと思ったら神経を触っているから、その負担がかかったからで、リハビリの結果、今では腕がここまで上がるようになった。右手は感覚がもうなくて、やっとグーができるようになってきたかなど。

僕の場合、身元引受人のいなかった頃があったんです。困っていたところ青山彩光苑さんが身元引受人になってくれました。兄貴は白山市にいたのだけれど、……ちょっと。

平井氏：Kさんが、受けた最初と2回目の手術のやり方は違ってきますよね。

K氏：ええ、実は頸の神経の周りに金属の板を張っています。

平井氏：1回目は？。

K氏：1回目は骨と骨の間に骨を入れています。それではもうダメなので、2回目の時は骨と神経の間に金属の板を入れて骨を固定、ボルト3本ほどで金属の板を留めています。だから普通のレントゲンで見ると見えません。

平井氏：見えないですね。ボルト入っているのは見えるけど、中が狭くなっているのはわからない。

K氏：MR I とかじゃないと見えない。

浅木氏：そうですね。施設として身元保証人になってもらえたのですね。

K氏：なんとか。

浅木氏：良かったですね。

K氏：本当は兄貴が「うん」と言ってくればよかったけれど、兄貴が面倒見きれないと言ってきたので仕方がなく、はじめは検査入院という形で早く入院したのかな。

本当は12月の予定でしたけれど、手術できたのは遅くなって1月27日でした。頭では解っていても、手術を受ける直前になっても怖かった。いいか、こうなったらまな板の鯉だと覚悟を決めました。

そういう覚悟で臨んだので、看護師さんにも事情を説明してあったので、他の利用者として入院されている方と区別はされないようにとしてくれました。ありがたいことです。僕の出来ることは似顔絵を描くことです。入院の時に描いていた似顔絵と今描く似顔絵とはちょっと違います。そのため、看護師さんの中で、モテたのです。

浅木氏：今日はその作品はないのですか。

K氏：いや、どこに行ったかわからなかったし、桶屋君が話だけでいいと言っていたので、持って来ませんでした。

平井氏：お話はもうありませんか？

K氏：今、悩んでいるのは右手の感覚が無くなっている。訓練して動くようになるかどうかです。

A氏：手術する前と今とやって良かったか。そのところを話して下さい。

K氏：まあねえ、手術して良かったことは後々にならないとわからない。

浅木氏：皆さん、そうおっしゃいますね。



作業療法で「はめ込み手芸」を行うK氏

A氏：痛くて手術したんだろう。手術する前と後とどっちが痛いのか、痛みは止まったのか。

K氏：術後の痛みはありますが、右手が上がるようになった。

A氏：そこらあたりどうか。俺も痛くておられん。Kさんも痛くて手術したんだと思う。その結果、手術前と後と、良いか悪いか聞きたい。

K氏：今は質問コーナーでないと思うのですが。

桶屋：……後で。

K氏：後で質問にお答えします。良いですか。

F氏：痛みのことだけれど。手術は痛みを取るための手術じゃなくて、これ以上悪くならない

手術だと言われます。

K氏：今の僕の悩みはなんとか右手が前のように回復すればいいなど。

さっき言った痛みのことなんだけれど、頸の痛みは確かに残ります。特に寒くなる一とやはり痛いので、できるだけ沢山着て体温を下げないようにしています。

F氏：緊張型とアトトーゼ型を……どうして緊張するのか。一点だけ聞いてみたい。

M氏：脳性マヒの緊張する人と緊張しない人。

平井氏：硬直型と緊張型がありますね。

F氏：痛いのはどっちだろう。

平井氏：多分緊張型の方が頸を痛めるのは多いと思うので。硬直型はあまり2次障害が出てこない。

浅木氏：私よくわからないけれど、硬直と緊張とは？

平井氏：つっぱっている人はみんな緊張型です。硬直型は完全に硬直している。

K氏：硬直型は固まってしまう。硬直型はアトトーゼがない。いらぬ力が入らない。

H氏：私はビックリするとビクッとなるけど。

K氏：ビックリ反射か。それは誰でもあるよ。

平井氏：誰でもあるけど問題は？

浅木氏：電車のカンカンカンにびっくりしたり。

H氏：そうそう。

K氏：急に肩をふれられるとビックリ。

H氏：あとは音。

浅木氏：音に敏感なんですよね。

平井氏：物を持つと手が震えます。それは多分緊張ではなくてアトトーゼ型。硬直型じゃないですよ。

K氏：結局、僕と同じ。

H氏：音にビックリし、飛び上がりそうになる。

桶屋：アトトーゼ型だ。

平井氏：反射があるのは当たり前なんです。反射がないと、火傷した時に熱いと思っても手を離せないと、火傷してしまうのでかえって危ないのです。

K氏：身体がびっくりした時に瞬間的に必ず手をつくだろう。

H氏：音に反射する。

K氏：例えば、今だったら肩にちょっと手をあててもビックリするんだ。

平井氏：ここでパーンとしてもビックリする。それは慣れてしまうと治ることもあって。

Aさんがいろいろ言っておられてFさんも答えておられたけれど、手術したからといって痛

みはなくなるかというとなくならないのです。
でも痛みの程度はちょっと違ってきますよね。

手術したからといって痛みがなくなるとは限らない。

K氏：僕らが言っているのは痛みというのは傷の痛みとか骨がギコッてなる痛みじゃないな。特に僕らが関係するのは傷の痛み。だってよく考えたら、今までの開いてなかったのに、そこを開いて神経を広げて金属を入れて……、それも2回もやっている。だから、そこが弱くなっているのです。

平井氏：Fさんの痛みって手術する前も今も痛みは同じなんですか。

F氏：「良くなっていった」と言えば良いのか。痛み慣れたというか。

平井氏：痛み慣れた？。

F氏：少しだけ。

K氏：痛み慣れた。まあ自己催眠だな。

F氏：痛みがなくなることと治ることは違うと思います。

平井氏：今はぐっすり夜寝ることができますか？。

F氏：夜は寝られる。傷の痛みはある。緊張すると痛い。

K氏：だから、出来る限り緊張しないで。

F氏：気をつけているけど痛い。

平井氏：緊張すると確かに痛いよね。

K氏：つまり温度があがって痛みが出ない。

平井氏：暖くなると痛みは感じないけど寒くなると痛みが強くなりますね。

F氏：暖かいと楽になる。

K氏：外の気温と中の気温でも違うので。

はめ込み手芸の作品



～次号へ続く～

協力会費納入のお願いについて

平素は「H S K季刊わたぼうし」をご愛読いただきありがとうございます。

「H S K季刊わたぼうし」は1985年（昭和60年）1月に「羽咋わたぼうし会」の有志で施設利用者・在宅障害者・健常者の交流を目的に創刊しました。

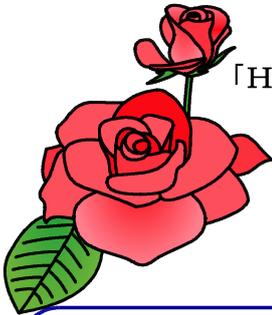
創刊以来、読者の皆様からの会費をいただきながら28年間、発行を続けてきました。

今後も能登地方の障害者福祉活動として「H S K季刊わたぼうし」を存続させていくため皆様のご協力をいただきたく、今回、郵便振替用紙を同封させていただきました。

主旨をご理解の上ご協力いただきますようお願いいたします。また、既に振り込まれた方にも、送付作業の関係上、振替用紙が同封されていますのでご理解のほどお願いいたします。

2013年 4月

「H S K季刊わたぼうし」事務局



編集後記

読者の皆さん、今年の春はいつになっても寒い日々が続いていましたが、健康状態はいかがでしょう。

寒さのためか、周囲の桜は例年のように満開にならず、チラホラ咲きで寂しく、ツバメが来るのも例年より遅く、5月になってやっと巣作りを始めています。

七尾の青柏祭の出店に地域活動支援センター「ゆうの丘」があり募金活動をしていました。東日本大震災の津波で、2人の利用者が亡くなった障害者施設の再建のための募金活動です。私たちが自分たちのできることで、被災地を応援していければと思いました。(Z.O)



春の花壇を彩るラッパ水仙(青山彩光苑)

年間協力会員募集中

この機関紙は障害のある人、ない人がそれぞれの考えを出し合う中から、互いに理解を深め、共に生きる豊かな社会づくりを目的として、有志により発行しています。

つきましては、主旨に賛同して協力会員になっていただく方々を募集しています。

この会費で、在宅障害者や福祉関係機関等に送付していますので、機関紙一部の料金ではなく、年間協力会費として扱っています。

年間協力会費：2,000円

会費振込先：郵便振替口座

振込先名義：わたぼうし連絡会

00750-6-9791

送付：春、夏、秋、冬

編集及び連絡先

ホームページ

H S K季刊わたぼうし

検索

<http://jiritsusien.com/>

Eメール：zen@san9.net

定価二〇〇円